

MMA Currency Report

★★ドル/円 ユーロ/ドル ユーロ/円★★

By Raymond A Merriman

投資日報出版(株)

コピー 対外 配布 厳禁

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-12-11-GRANDE 人形町6階 No. 759 2020年8月17日

毎週月曜日発行(月曜日が祭日の場合翌営業日)

TEL 03-3669-0278 FAX 03-3668-4444

メリマン公式サイト <http://www.toushinippou.co.jp> (投資日報公式サイト)

重要変化日: 以下の変化日は全ての市場に影響を与える。それは天体位相のクラスターの中心点前後3営業日である。時として前後5営業日に延長されることがある。従ってこの期間に相場が2週間(あるいはそれ以上)ぶりの高値、あるいは安値をつけていけば、反転する可能性が高まる。それは特にMC、ハーフPC、あるいはPCがボトムを付ける時期には反転が起りやすい。これらの変化日は太陽/月による変化日よりも重要である。そのような多くの惑星が関連すれば、サイクルの終了とスタートに関係する可能性が強まる。下記はこれらの天体位相の中心点である。カッコ内はクラスター期間である。もしこのクラスターの期間が非常に長ければ(15日以上)、このクラスターの範囲内でよりタイトなクラスターをベースにもう一つの反転があるかもしれない。

8月14~17日 ★★(この時間帯で株式市場は高値を、貴金属市場は安値をつけたと思われる)

8月28~31日 ★★(次の★★★重要変化日の一角) 9月5~8日 ★★★(レーバーデーと火星逆行を含む)

※ これらの期間は通常太陽/月の反転ゾーンよりも重要である。しかし、それは必ずしも正確ではない。この期間は通常MC、ハーフPC、そしてPCの天底と合致するのに対し、月の重要変化日は2.5%の相場反転と合致するだけである。

* ストップロスについては引け値を対象にしているが、これを日足ベースにするか、週足ベースにするかは個人のリスク許容量に委ねる。

1. ドル/円

先週のドル/円相場は、引け値で週間上値抵抗線を上回っていたので強気。更にこの引け値は週間トレンドインディケーターポイント(TIP)を6週間ぶりに上回っていたので、基調は“ニュートラル”に格上げされた。

今週のTIPは105.91。週の引け値でこの値を下回ると、基調は再度“下降トレンド”に格下げされよう。

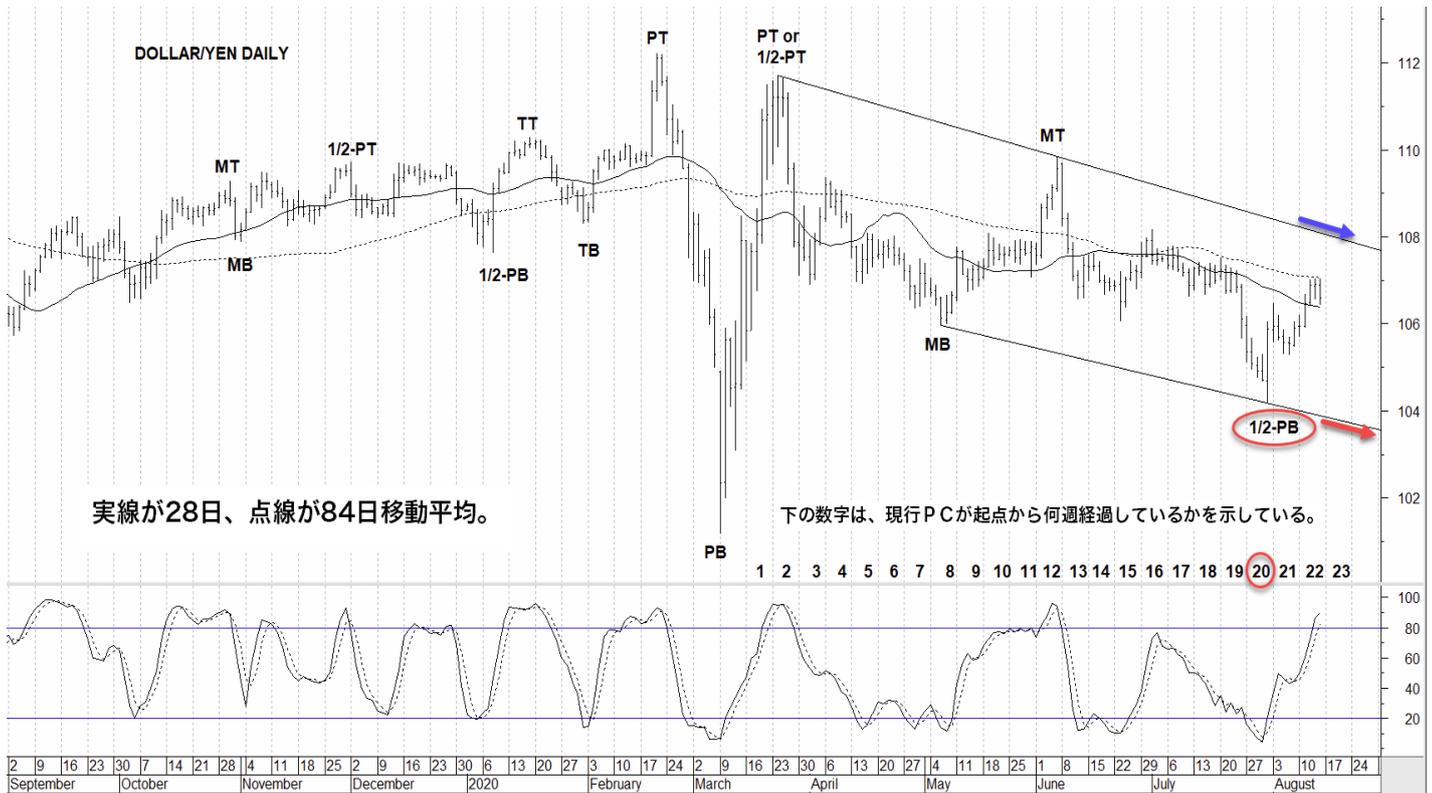
週間下値支持線は105.84~105.91。(今週のTIPと重なっている点に注意。これは通常強気を示唆するものだが…) 週の引け値がこのレンジを下回れば弱気、週の途中で下回っても、週の引け値が上回れば強気トリガー。

週間上値抵抗線は107.19~107.26。週の引け値がこのレンジを上回れば強気、週の途中で上回っても、週の引け値が下回れば弱気トリガー。

強気クロスオーバーゾーン(強気相場における下値支持となるゾーン)は依然として94.23~94.88に存在し、サポートゾーンとして機能している。なお、108.34~108.42にあったゾーンは既に破られ、121.29~121.62と共に現在、上値抵抗線として機能している。

弱気クロスオーバーゾーン(弱気相場における上値抵抗となるゾーン)は依然として112.57~112.64、122.31~122.46、123.40~123.62に存在。現在レジスタンスゾーンとして機能している。

現時点で好ましいサイクル位相: 当レポートでは、現行PC(26~40週)の起点を3月9日に記録した2016年11月以来の安値水準である101.17としている。従って今週はPCの23週目である。



実線が28日、点線が84日移動平均。

下の数字は、現行PCが起点から何週経過しているかを示している。

当レポートでは以前より“通常、ドル/円相場のPCは3つのMC（通常9～14週）で構成されるか、2つのハーフPC（通常13～20週）で構成されるかのどちらになるのが大半である”と述べて来たが、相場は起点から20週目にあたる7月31日に104.17まで下落後に急反発。そしてこの日は★★重要変化日（7月31日±3営業日）の当日でもあった。従って、この安値は第1ハーフPCボトムであったと思われる。つまり今週は、PCの23週目にして、第2ハーフPCの3週目という見方になる。この見方が正しければ、「サイクルの序盤は強気」の原則に基づいた真つ当な（第2ハーフPCの天井に向けた）反騰局面に入っていると思われる。

ここから想定される展開は2つ。1つ目は（第2ハーフPCの）起点から2～5週にわたって反騰するも110を超える事はない弱気型PCの見方。2つ目は爆発的に上昇する強気型PCの見方だ。私自身は前者の見方だと睨んでいるが、後者の見方を排除する事が出来ない。当レポートでは以前から、現行PCが3位相パターンで構成される可能性を以前から指摘していた。この見方だと、起点から8週目にあたる5月6日の105.97が、通常よりも1週短い第1MCボトムであり、先述の7月31日の安値はそこから12週目なのだ。従ってこの安値は第2ハーフPCと同時に第3（最終）MCの起点でもある一という見方が出来る。PCが3位相パターンで構成される場合、強気型PCだと最終位相（第3MC）で急上昇するケースが少なくない。そして、現行相場は目下反騰中のように見える。

今回掲載した日足には下降チャンネルラインが引いてある。我々は、目先の相場がこのラインの上限を突破出来るかどうかを見極めたいと思う。実際、突破する可能性はあると私自身は見ている。

想定シナリオが崩れた場合に考えられるPC：今のところ存在していない。ただ、現時点での現行相場における唯一の関心事は、現行（第2）ハーフPC、もしくは現行（第3）MC（あるいはその両方）が強気型になるのか、それとも弱気型になるのかという一点に絞られるだろう。

相場トレンド自体は下降線を辿っており、これは相場基調が弱気であることを提示している。しかし、現行PCが弱気なら、起点である3月安値（101.17）は割り込まれている筈。しかし現時点でこの値位置は割り込まれていない。これこそが強気シナリオを排除する事が出来ない要因となっている。

これに関しては『MMA サイクルズレポート』の中でも指摘したが、ドル/円相場の長期サイクルは現在、5.5年サイクルを構成する3つ目（第三位相）の22.5カ月サイクルなので、今回日足で提示したものと同じような可能性が週足にも表れている。

とはいえ、仮に現行PCの弱気パターンが今後も続くなら、目先の相場は何処かで101.17を試すか割り込む公算が高い。更に目先の反騰場面も恐らく107.00±0.67を突破する事はないと思われる。実際、相場は先週13日に107.04まで上昇。これは、上記の上値抵抗レンジ内である。更に言えば、この日は★★重要変化日（8月14～17日±3営業日）のエリア内。今回の重要変化日には天王星逆行が含まれており、通貨市場にとってはより重要度が高い変化日であるともいえる。従って相場はここから反転して下降線を辿る可能性も否定出来ない。

しかし、109.84を上回ると、目先の相場基調は強気である事が示され、112 超え相場も夢ではなくなると見ている。

ストラテジー：ポジショントレーダはポジションを利食いしてフラット。今週は様子見としたい。

一方、積極的トレーダはショートし、一部利食いもこなしていたが、前回のレポートで“…寄付きから残り3分の1のポジションを利食いすると共に、105.25±0.40付近で買い転換したい。その際、104.17以下の引け値にストップロスを入れておく”とアドバイス。ドテンロングに成功している。今週は上記の方針を踏襲してポジションを保持しておく。その上で、107.50±0.35まで上昇した場面ではポジションの3分の1を利食いしておきたい。

2. ユーロ/ドル

先週のユーロ/ドル相場のレンジは週間下値支持線と上値抵抗線の間で推移していたのでニュートラル。ただし、週の引け値は週間トレンドインディケーターポイント（TIP）を6週連続で上回っていたので、依然として基調は“上昇トレンド”が維持された状態にある。

今週のTIPは1.1792。週の引け値でこの値を下回ると、基調は再度“ニュートラル”に格下げされよう。

週間下値支持線は1.1745～1.1763。週の引け値がこのレンジを下回れば弱気。週の途中で下回っても、週の引け値が上回れば強気トリガー。

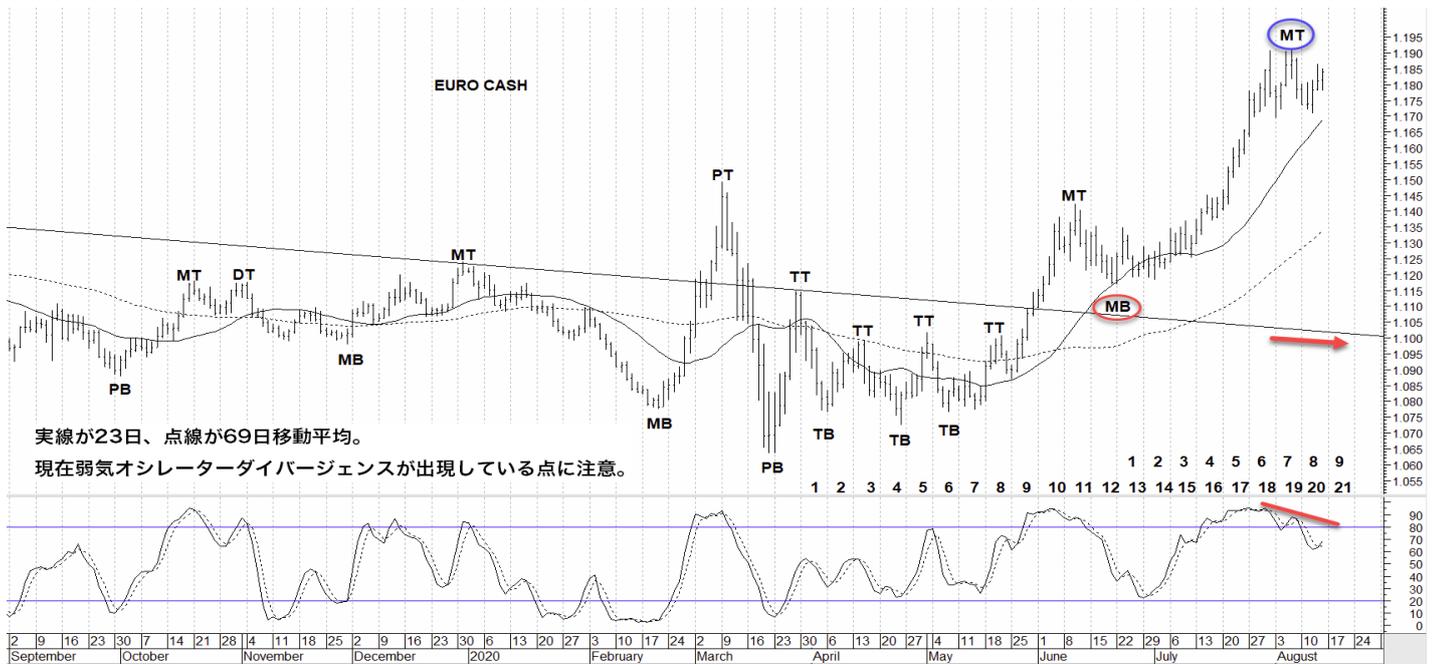
週間上値抵抗線は1.1900～1.1919。週の引け値がこのレンジを上回れば強気。週の途中で上回っても、週の引け値が下回れば弱気トリガー。

強気クロスオーバーゾーンは依然として1.1486～1.1525に存在。サポートゾーンとして機能している。なお、既に破られている1.2808～1.2844、1.3776～1.3777、1.1514～1.1537は現在、上値抵抗線として機能している。

弱気クロスオーバーゾーンは依然として1.3071～1.3101、1.3332～1.3358、1.4386～1.4409、1.5322～1.5458（順次上値抵抗として働く）に存在。これらはレジスタンスゾーンとして機能している。なお、既に破られている1.1324～1.1380は現在、サポートゾーンとして機能している。

現時点で好ましいサイクル位相：私の見立てでは、3月23日の安値である1.0635が現行PC（通常23～37週）並びに長期相場サイクルの起点である、と考えている。もしそうであれば、今週はその21週目。更に当レポートでは以前から“直近の安値は6月19日と同月22日に1.1167を記録。これは★★★重要変化日（6月19～22日）に見事にフィットしている。これは起点から12週目と13週目に出現した安値であったので、これらの安値は第1MCボトムか第1ハーフPCボトムであったと見るべきであろう”と述べていた。従って過去のチャートパターンから考えると、今週は6月19日の安値を起点とした第2MC（通常8～12週）の9週目であると思われる。

起点から7週目にあたる8月6日、相場は1.1915まで上昇。7月31日の1.1908を上回って年初来高値だけでなく数年来の高値をも更新した。ただ、値位置及びチャートパターンの観点ではダブルトップの形状である可能性が高く、更にどちらの高値も★★重要変化日の時間帯（7月31日±3営業日）の影響下にあった可能性が高い。従って、これらの高値は第2MCの天井であった公算が高い。もしそうであれば、現在は第2MCのボトムに向けた下降場面であり、MCボトムは恐らく今後3週間以内に出現しよう。勿論、先週の時点で第2MCボトムが出現した可能性もある。もしそうであれば、今週は第3（最終）の1週目となるので、今週は大きく反騰する場面になる筈である。従ってこの見方がサポートされるには、その反騰で新高値が更新される必要がある。そのため、もし今週反騰がなければ、第2MCボトムに向けた下降局面に入っていると見ておいた方が良い。



想定シナリオが崩れた場合に考えられるPC：今のところ存在していない。唯一の疑問点は、8月6日の高値がはたして第2MCの天井であったか否かという点であろう。もし天井でなかった場合、今後3週間以内に出現するであろうMCボトムに向けた下降場面よりも先に再度高値を指向する場面が出現する筈である。

ジオコスミック：繰り返しになるが、8月6日の高値は★★重要変化日の時間帯（7月31日±3営業日）の影響下にあった可能性が高い。何故ならそれは中心的時間帯から4営業日後に出現した高値であったからである。更にこの高値は、8月4～24日にかけて出現する《全ての相場に向けたパニックサイクル》の影響で起こった可能性もある。これは8月4日に出現する火星・木星スクエア（90度）に始まり、24日の火星・土星スクエアで終わるクラスター。つまり、「山羊座のステリウム」に関係する主要外惑星（木星・冥王星・土星）と火星がスクエアの関係になる時間帯と言い換える事も出来る。

その火星は13日に冥王星とスクエアの関係になった。更に15日には天王星が逆行を開始した。そして、そのどちらも通貨や金利関連市場との相関性が高い。先週の安値は12日に出現した。従って、この安値は上記の天体位相の影響によるものである—という見方も出来る。

また天王星は、ブレイクアウトと数年来の高値に対応している。もし目先の相場が6日高値（1.1915）を上抜けるようなら、現行MC並びにPCが更なる高値を指向している事が示される。そのため、8月14～17日に設定されている★★重要変化日±1週間の時間帯はMCの天底のどちらかと関連性を有する可能性が高いのではないかと見ている。更に、もしMCボトムと関連するなら、相場は23日平均付近まで下げるか下回る公算が高いと思われる。

なお、当レポートではそれまで上値目標を 1.1795 ± 0.0137 エリアに設定し、更にこの水準を突破した場合には、次の目標値を 1.2457 ± 0.0215 に設定していた。仮に8月6日の高値が第2MCの天井であった場合、下値サポートの第一関門は 1.1541 ± 0.0088 に設定されよう。実際、相場が第一関門を割り込んだ場合について、当レポートではこう指摘していた。即ち“…この水準を割り込むと、この相場は1.1000～1.1200の何処かでボトムつける事になると思われる。ここで注目すべきは15日スローストキャスティクス。この指標を見ると現時点でこの相場が如何に買われ過ぎているかが理解出来よう。ただし、この指標が示唆しているのは現行PCではなく現行MCの天井であると思われる。ここから2～6週間後の何処かでMCボトムが出現すると、次のMC（第3MC）の天井に向けて反騰しよう”。

7月末の時点で相場とストキャスティクスとの間には弱気オシレーターダイバージェンスが発生していた。これは、今週の相場で1.1915を上抜ける事が出来ないと第2MCに向けた下げが始まる可能性を示唆している。

なお長期見通しに関しては、以前から以下のジオコスミック要因を提示。これは依然として有効である。即ち“…注目すべきは、月のノースノード（交点）が蟹座の0度を超えている、という点である（月の交点は日食や月食と関係が深い：21日の夏至に日食が起こるのもこのため）。これまでの研究の結果、通貨市場であればこの事象の±9カ

月、通常であれば±5カ月の期間中の何処かで長期相場トレンドの反転と相関性を有している。私自身は、現行PCの起点である3月23日の1.0635が、ここで示唆されている“長期相場トレンドの反転”と関係しているのではないかと、というスタンスを取っている。そのため、長期的に見て現行相場は強気であると私は睨んでいる。とはいえ、短期的な見通しは（例えば「今週ないし来週あたりに何らかの安値をつけるのでは」という具合に）弱気であると考えている”。この記述を受けて、先週のレポートではこう補足した“更にもっと大きな視点でこの相場を見ると、この反騰相場は1.2500超えを目指すのではないだろうか”。

トレーダに向けた信頼水準：高い。仮に今後3週間以内に第2MCボトムに向けた下げが始まり、特に1.1541±0.0088でMCボトムをつければ尚更である。

ストラテジー：ポジショントレーダは現在ロング。既にポジションの3分の2を利食いしている。今週も1.1000以下の引け値にストップロスを入れて残りのポジションを保持しておきたい。その上で、1.1550±0.0060があれば買い直しを図りたい。

積極的トレーダは全てのロングポジションを既に利食いし、現在はフラットである。今週も1.1560±0.0060付近まで下落した所での買い直しを図るのが恐らく望ましい。その際、1.1370以下の引け値にはストップロスを入れておく。

3. ユーロ/円

by MMA Analyst Gianni Di Poce

先週のユーロ/円相場は、引け値で週間上値抵抗線を上回っていたので強気。更にこの引け値は、週間トレンドインディケーターポイント（TIP）を7週連続で上回っていたので、基調は依然として“上昇トレンド”が維持された状態にある。

今週のTIPは124.98。週の引け値でこの値を下回ると、基調は再度“ニュートラル”に格下げされよう。

週間下値支持線は124.77~125.00。週の引け値がこのレンジを下回れば弱気、週の途中で下回っても、週の引け値が上回れば強気トリガー。

週間上値抵抗線は127.19~127.42。週の引け値がこのレンジを上回れば強気、週の途中で上回っても週の引け値で下回れば弱気トリガー。

強気クロスオーバーゾーンは依然として118.08~118.26、104.95~105.17に存在。これらは現在サポートゾーンとして機能している。なお、既に破られた127.27~127.60は、目下上値抵抗線として機能している。

弱気クロスオーバーゾーンは依然として127.56~127.67に存在。142.38~142.98、150.58~153.25と共にレジスタンスゾーンとして機能している。

サイクル：直近のサイクル位相を振り返ると、昨年9月3日の安値115.84から起算したPC（23~37週）は、起点から35週目にあたる5月7日の安値114.41でボトムを形成。ここが現行PCの起点と見ている。そうであれば今週はその15週目となる。更に、このPCは3つのMC（通常8~12週）でサブサイクルが構成されると予測。起点から7週目にあたる6月22日の安値をもって（通常の日柄よりも1週短い）第1MCボトムを形成。今週は第2MCの8週目に入っている公算が高い。

ユーロ/ドルと同じく、ユーロ/円も8月6日に年初来高値を更新した。しかし日柄的には終盤に入っている。更に現在、弱気オシレーターダイバージェンスが発生。目先の反騰の一時停止、あるいはプルバック場面の出現を示唆している。しかし、実際にそのような場面したとしても、我々は現行相場が127.30~127.80を目指している—という見通しを保持しておきたい。更にこのレベルをクリアすると、恐らく130.00付近まで上昇する可能性が考えられる。そして上記の第一関門に相場は迫っている。

ストラテジー：ポジショントレーダは現在ロング。今週は123.00以下の引け値にストップロスを入れて、このポジションを保持しておきたい。その上で127.30±0.30付近まで上昇した所でポジションの3分の1を利食いしておく。

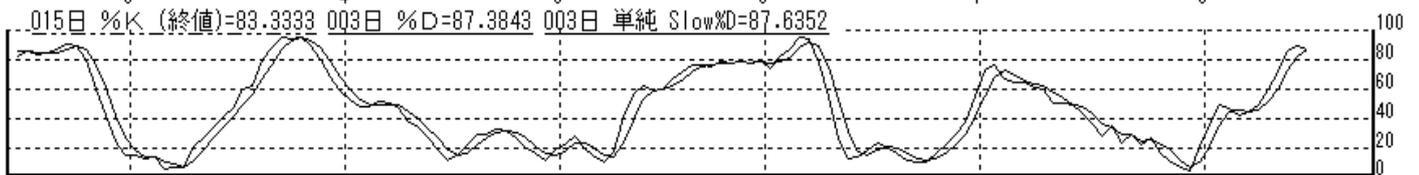
積極的トレーダも現在ロング。今週はポジショントレーダと同様に123.00以下の引け値にストップロスを入れて、このポジションを保持。その上で127.30±0.30付近まで上昇した所ではポジションの3分の1を利食いしておく。

USD/JPY (BID) 日足 期間20/02/13~20/08/17(133)高112.21 (20/02/20)安101.23 (20/03/09)
 20/08/17 始106.58 高106.66 安106.49 終106.57

28日 終値単純 MA=106.34 84日 終値単純 MA=107.04



.015日 %K (終値)=83.3333 003日 %D=87.3843 003日 単純 Slow%D=87.6352

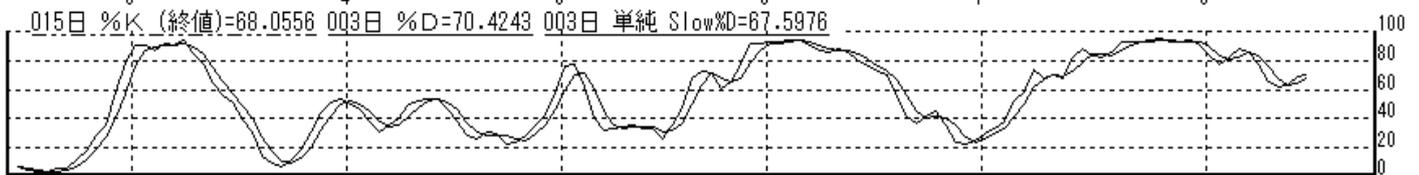


EUR/USD (BID) 日足 期間20/02/13~20/08/17(133)高1.1914(20/08/06)安1.0636 (20/03/23)
 20/08/17 始1.1839 高1.1846 安1.1831 終1.1845

23日 終値単純 MA=1.1709 69日 終値単純 MA=1.1355



.015日 %K (終値)=68.0556 003日 %D=70.4243 003日 単純 Slow%D=67.5976



EUR/JPY (BID) 日足 期間20/02/13~20/08/17(133)高126.74(20/08/13)安114.38 (20/05/07)
 20/08/17 始126.20 高126.28 安126.02 終126.23

23日 終値単純 MA=124.35 69日 終値単純 MA=121.56



.015日 %K (終値)=86.4000 003日 %D=87.0403 003日 単純 Slow%D=88.0771



このレポートは将来の見通しの適確性、あるいは収益性を保証するものではありません。トレーダ及びレポートの読者は自己責任で取引してください。このレポートの筆者も発行人も金融、あるいは商品市場における各参加者の決断については一切責任を負いません。先物、あるいはオプション取引は高リスクを伴うと考えられています。